

狭山が発祥の地

童句

麩校はこがらの村に四月の鯉こいのぼり 高田 貞子
 酔よって寝る父の背中へ 散ちるよくら 大沢 久美
 釣つり人もうきも動かぬ 春の川 奥井 八重子
 葛くわ浦湯うらやくらべつこする カこぶ 原 千寿
 野のすみれをよけて席せきとる ピクニツク 田中 美代子
 友待ともまちつや 茶房さぼうにたたむ 春日傘はるひがさ 土家 由岐雄

※童句は、土家由岐雄氏(中央)が創始し全国に広がりました。大人が童心に返って子どもの生活や感情を詠う俳句のことです。子どもにもよくわかり、大人も詩情を感じる格調高いものです。わが子や孫がどうしたという句は童句ではありませんのでお間違えのないようお願いいたします

AET CORNER



ANITA (AET)

Hi, Everyone! I can't believe time has passed so quickly. It's my third year teaching in Sayama. I really like the beginning of the new year. My first graders are very bright, intelligent and enthusiastic about learning the English language. I'm very fortunate to be working at Irumano Junior High School. The principal and vice principal speak fluent English. The Japanese English teachers at Irumano are very hard working and they make great bilingual materials for the students. We have new textbooks this year, so I must reprogram the computer software that the students enjoy using. I still enjoying teaching in the computer room and I'm looking forward to using all the new materials this year.



池原 昭治の

さやまの茶会本

25



新茶の季節

市内の雑木林も若葉につつまれ「お茶香るまち狭山」の季節がやってきました。

全国的に有名な「狭山茶」は、今からおよそ八百年ほど前に栄西禪師という名僧が修業にいった中国からお茶の種子を持ちかえりました。その種子を弟子の僧たちが、日本のお茶づくりの僧たちが、日本の中でお茶づくりに合った場所にまかれたそうす。狭山茶は日本銘茶五場(山城、大和、伊勢、駿河、河越)の一つにも数えられています。

昔は、お茶づくりのすべてが手仕事でした。毎年五月が一番茶で、六月が二番茶といました。そのころに

なると茶つみ娘やほいろし(和紙をはったほいろのうえで手もみで、お茶をつくる職人のこと)がやってきました。

とくに茶つみは手ですみすので、なかなか骨のおれる仕事でした。猫の手もかりたい時です。子どもたちも手伝わされました。

△宇治の新茶と狭山のお茶と出あいましたよ横浜で・・・どうたいながら茶をつむ手はまるで機械のようでした。

おばあさんが言いました。「朝出かけるときはかならずお茶を飲みなさい、その日の難にあわない」と、みどりいっぱい茶畑の中子どもたちはかけまわります。

この広報紙はリサイクル推進のため古紙配合率80%の再生紙を使用しています

お・茶・香・る・ま・ち



【狭山市広報】

VOL.502

◆発行日/平成9年5月10日(毎月10・25日発行)

◆編集・発行/狭山市役所企画財政部秘書広報課

〒350-13 埼玉県狭山市入間川1-23-5

TEL.0429-53-1111(内線386)

FAX.0429-54-6262(行政資料室)

テレホンガイドさやま ☎0120-460-380